

# 鹿児島県気候変動適応センターの取組

鹿児島県環境保健センター 環境保健部



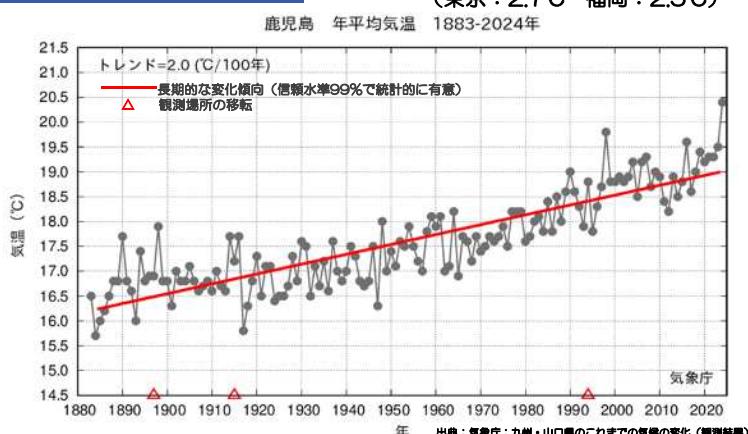
環境保健センターからの桜島

## 概要

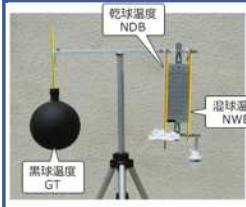
ヒートアイランドや気候変動による気温上昇に伴い熱中症による救急搬送者数は増加傾向にあり、その対策は地方公共団体においても喫緊の課題となっている。国立環境研究所との共同研究では、地域の現状を把握するために、熱中症による救急搬送者数に関する分析や将来予測、暑さ指数(WBGT)の観測等に取り組むとともに、熱中症発生傾向の分析を行った。

### 気温の上昇

※100年あたり2.0°C上昇  
(東京: 2.7°C 福岡: 2.5°C)



### 暑さ指数(WBGT) 湿球黒球温度



※Wet Bulb Globe Temperature の略称で、左記の測定装置の3種類の測定値（湿球温度、黒球温度及び乾球温度）をもとに算出される。

出典：環境省熱中症予防情報サイト

#### ○ 屋外での算出式（単位：°C）

$$0.7 \times \text{湿球温度} + 0.2 \times \text{黒球温度} + 0.1 \times \text{乾球温度}$$



出典：環境省 夏季のイベントにおける熱中症対策ガイドライン

### 熱中症による救急搬送者数

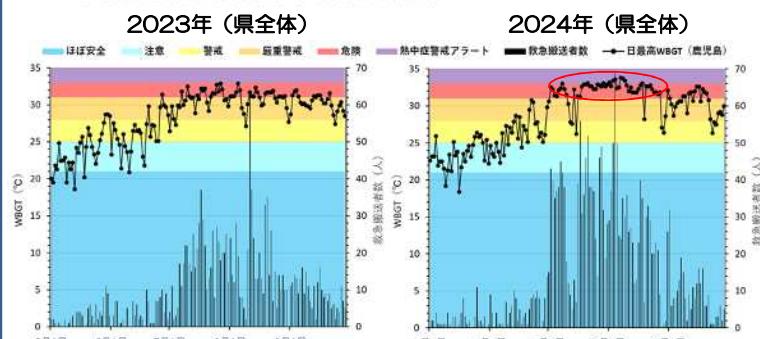
※搬送者数は増加傾向



2024年5月～9月の搬送者数は2253人、2008年の調査開始以降、多い搬送者数となった。  
(2025年: 1803人)

7月と8月に搬送者数が多く、調査年で多い月が異なっていた。

#### 2024年（県全体）



### 救急搬送状況

※2023年と2024年の比較  
年齢区分、発生場所は同様

#### ○ 年齢区分別：高齢者の割合が最も高い

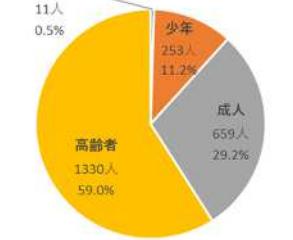
2023年（県全体）

合計 1546人



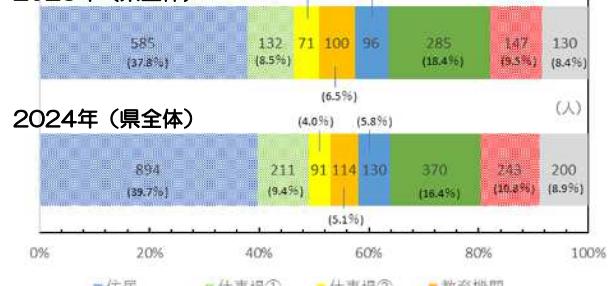
2024年（県全体）

合計 2253人



#### ○ 発生場所別：住宅の割合が高い

2023年（県全体）



熱中症は室内でも多く発生し、特に、高齢者は体内の水分が不足しがちで、暑さやのどの渴きを感じにくい上に、汗をかきにくく、体温を下げる体の反応が弱くなることから、注意が必要である。